阿蘇くじゅう国立公園

長者原ビジターセンター

平成 25 年度　活動報告

くじゅう地区管理運営協議会

目次

1．長者原ビジターセンター利用状況 ・・・・・・・・・・・・2
（1）入館者数
（2）ハイビジョン映像上映回数

2．長者原ビジターセンター運営業務 ・・・・・・・・・・・・4
（1）利用案内と展示
①常設展示
②企画展示
（2）自然ふれあい行事の実施
①自然観察会
②自然解説員（インタープリター）利用事業
③各種イベント

3．施設管理業務 ・・・・・・・・・・・・14
（1）清掃業務
①日常清掃
②特別清掃
（2）園地管理業務

4．自然環境保全活動・調査 ・・・・・・・・・・・・15
（1）自然環境保全活動
（2）モニタリングサイト 1000 里地調査

5．環境教育活動 ・・・・・・・・・・・・16
（1）飯田高原お宝クイズ
（2）飯田小学校親子レク
（3）飯田高原お宝探検隊との活動

6．広報活動 ・・・・・・・・・・・・17
（1）メディア関係
（2）長者原ビジターセンターブログ
（3）長者原ビジターセンターフェイスブック
（4）長者原だよりの発行

7．職員研修実績 ・・・・・・・・・・・・23
（1）技能研修
（2）視察研修

8．新聞掲載記事 ・・・・・・・・・・・・24

9．その他 ・・・・・・・・・・・・29

1．長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

・平成 25 年度の来館者数は、123,755 人であった（前年度比：約 7.6%増）。

・入館者数カウンター設置（平成 21 年度）以降、過去最高入館者数を達成。

・昨年度は試験的に 7～8 月の開館時間の延長（16：00 閉館⇒17：00 閉館の 1 時間延長）を実施したが、今年度は、開館時間延長の期間を 5～10 月に拡大した。

・来館者増につながった理由としては、新規イベント「サロン de くじゅう」の開催や、企画展示「クイズスタンプラリー」の開始、ハンズオン展示の新設（「森のかおり」コーナーや「ハンズオン」コーナー）、既存展示の充実（登山コーナーへのマネキン設置、エコフィールドマップの内容充実）など、利用者がより楽しめる施設を心がけたことが要因と考えられる。来館者が減少した 10 月は、台風が多かったこと、また 2 月は、記録的な大雪による影響が要因と考えられる。

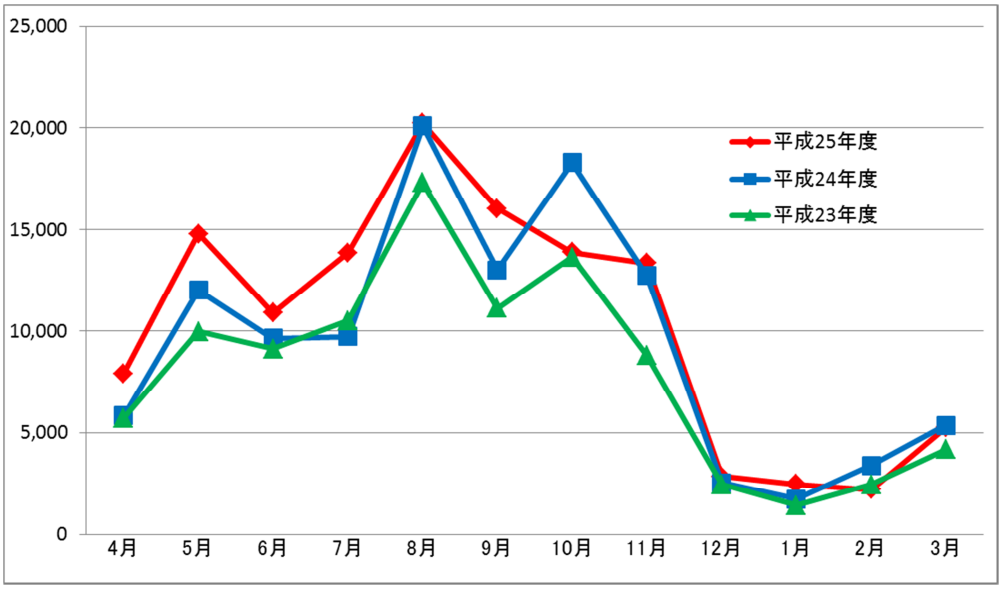
・自然解説員利用事業の継続的な実施も、来館者増につながっていると考えられる。

館内利用の様子

表 1.　来館者数一覧表（平成 23 ～ 25 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成25年度	7,913	14,802	10,875	13,866	20,228	16,051	13,881	13,353	2,859	2,482	2,196	5,249	123,755
平成24年度	5,823	12,012	9,632	9,710	20,108	13,012	18,305	12,745	2,537	1,739	3,393	5,361	114,377
平成23年度	5,717	9,968	9,123	10,507	17,330	11,104	13,641	8,811	2,457	1,418	2,448	4,179	96,703

図 1.　来館者数推移（平成 23 ～ 25 年度）



(2) ハイビジョン映像上映回数

・平成 25 年度ハイビジョン映像上映回数は 693 回（前年度比約 21%減）、延べ人数 6,910 人であった（前年度比：約 17%減）。

・来館者増に対し、ハイビジョン映像利用が減少していることから、館内イベントや展示の充実と合わせて、ハイビジョン映像へつなげる取り組みが今後必要と考えられる。

・「くじゅう彩りの大地」「生命めぐる湿原」のハイビジョン映像の他、大型モニターでの「生命はぐくむ炎～春の野焼きとくじゅうの草原」の映像についても、多言語字幕付き上映が可能なので、外国人来館者に対して、利用を促進するために、多言語字幕付き上映可能案内を設置した。

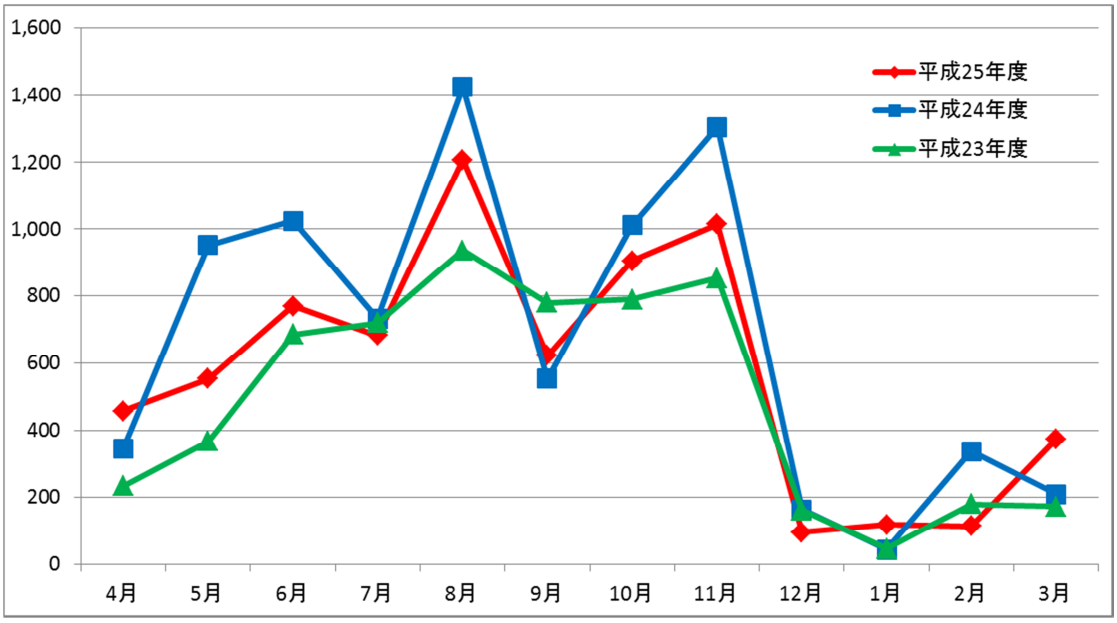
ハイビジョン映像上映の様子

映像の多言語字幕付き上映可能案内の例

表 2.　ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成 23 ～ 25 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成25年度	457	554	770	682	1,207	622	904	1,015	94	117	113	375	6,910
平成24年度	344	951	1,025	733	1,424	554	1,011	1,305	162	43	337	208	8,097
平成23年度	233	368	685	720	936	780	789	852	160	45	179	171	5,918

図 2.　ハイビジョン映像上映人数推移（平成 23 年度～25 年度）



2. 長者原ビジターセンター運営業務

(1) 利用案内と展示

①常設展示

延べ 121 回展示更新（月に 10 回程度）

展示内容	展示箇所	頻度
旬の見どころ紹介ボード	2階 入口	月1回
自然観察会紹介	2階 入口付近	年4回
登山の服装とキャンプ紹介	2階 入口付近	月1回
九重の自然写真館	2階 受付前	月2回
国立公園情報・登山道情報	2階 受付前	月1回
森のかおり(新設)	2階 映写室入口付近	年4回
ハンズオンコーナー(新設)	2階 受付前	年4回
ビジターセンターTV	1階 入口付近	月1回
くじゅうの植物図録	1階 パネル設置	月2回
エコフィールドマップ	1階 入口付近	週1回
くじゅうの自然を支える活動	階段 ボード	月1回
モニタリングサイト1000調査雄紹介	階段 ボード	月1回

a) ビジターセンター2 階

ビジターセンター2 階はメイン入口となっており、自然に関する情報（旬の見どころや国立公園・登山道情報）や、展望を利用した休憩スペースを設置している。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナー展示や、周辺地域の情報などを展示している。

旬の見どころ紹介ボード

自然観察会紹介等

九重の自然写真館

受付カウンター

登山の服装とキャンプ紹介

くじゅう連山登山に必要な服装・登山道具などの展示、及びテント・寝袋等の体験コーナー。

国立公園情報・登山道情報

環境省アクティブ・レンジャーによる国立公園の魅力紹介や、最新の登山道情報を展示。

おでかけマップ

国立公園周辺の見どころや周辺の道路情報を展示。また、南阿蘇 VC の案内も併せて展示。

展望コーナー

「くじゅう」に関する書籍や雑誌、登山専門誌などの閲覧および休憩コーナー。

【新設展示】

森のかおり

香りを持つ木についての解説と併せて、様々な木のアロマオイルを壁に展示し、木の香りを体験できるコーナー。

ハンズオンコーナー

実物にさわって知ることができるハンズオンコーナー。植物の実や種などを展示。

b）ビジターセンター1 階

1 階は、タデ原湿原やくじゅう連山登山道への出入り口となっているため、タデ原湿原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示。

くじゅう連山ジオラマ周辺

くじゅうの植物図録
（図録作成：九重の自然を守る会）

エコフィールドマップ

今見られる景色や動植物などを、楽しみ方の幅を広げる手づくりの解説付きで紹介。

子どもコーナー

くじゅうの山の高さを楽しく学べる山の高さの展示の他、年輪を数えたり、自然関係の絵本を設置している。

c）階段

タデ原湿原入口やトイレ利用のための通過点となっており、多くの来館者が自然と目にする場所であるため、自然保護などの「くじゅう」で行われている活動を知ってもらう内容を展示。

くじゅうの自然を支える活動

登山道整備や外来種駆除活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介。

モニタリングサイト 1000

九重の自然を守る会がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介。調査結果や、参加者の声も展示。

②企画展示

a)「くじゅうの森をたんけん！クイズスタンプラリー」

実施期間：平成 25 年 4 月 28 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日

館内の展示を利用し、望遠鏡をのぞいてクイズに答えたり、生き物のスタンプを押したりしながらくじゅうの自然を学ぶことのできる子供向けの参加型展示。記入したスタンプラリーシートはビジターセンター職員が答え合わせを行い、解説とプレゼントのシールを手渡すことで、利用者との交流を行った。参加者数は延べ 2,073 人。利用者層は小学生以下が 76%（1,569 人）であり、特に休日や夏休みの親子連れの利用が多かった。

b)「昔の雪の道具」

実施期間：平成 26 年 1 月 4 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日

冬季期間中、九州の中でも雪の多い「くじゅう」特有の気候に合わせて、雪にまつわる昭和初期頃の道具を 4 点展示。
道具の名前が書かれたボードをめくると、使い方がわかるようになっている。
子どもから年配者まで幅広く利用が見られた。

c)「タデ原のおもな植物開花時期」

実施期間：平成 26 年 1 月 4 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日

4～11 月に行われたタデ原のモニタリングサイト 1000 の植物相調査の結果から、タデ原で見られる主要な植物 12 種について、その開花時期等を植物図録（作成：九重の自然を守る会）を用いて展示した。また、1 年間のモニタリング調査の様子も展示し、調査への理解の普及啓発を行った。

(2) 自然ふれあい行事の実施

①自然観察会

・平成 25 年度の自然観察会開催回数は 58 回（前年度比：14%減）、参加者数は、延べ 953 人。（前年度比：約 37%減）

・九重の自然を守る会の会員や、くじゅう地区パークボランティアがボランティアガイドを行う。

・50 名以上の団体利用は 2 回にとどまったことから（前年度 7 回）、参加者数が大きく減少した。ボランティアガイドの高齢化等により、学校単位での団体受入は難しくなってきている。

自然観察会の様子

表 3.　自然観察会参加者数 一覧（平成 23 ～25 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成25年度	35	72	25	136	241	245	149	39	2	2	0	7	953
平成24年度	30	283	70	161	412	228	117	76	118	1	11	13	1,520
平成23年度	56	68	23	188	395	200	156	90	84	0	6	41	1,307

図 3.　自然観察会参加者数 推移（平成 23 ～ 25 年度）

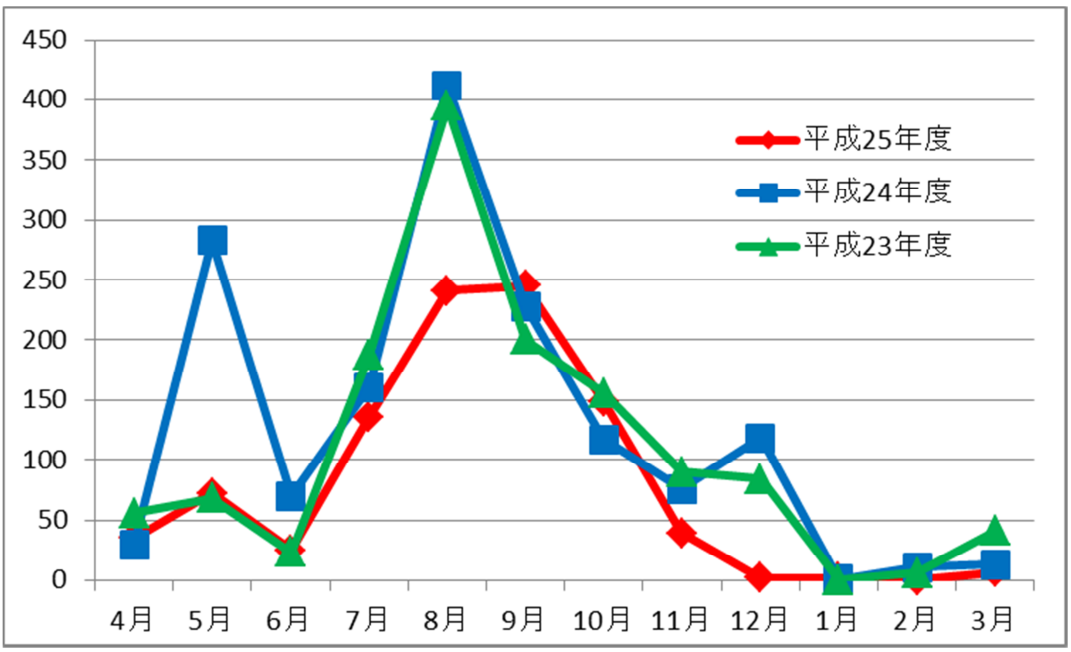


表 4.　平成 25 年度自然観察会開催 一覧

開催日		概要	参加者数
4月13日	土	予約	3
4月14日	日	定例	10
4月18日	木	中高年登山愛好会	22
5月3日	金	定例	2
5月4日	土	定例	17
5月5日	日	定例	12
5月6日	月	定例	4
5月12日	日	定例	6
5月24日	金	北山田中学校	28
5月26日	日	定例	3
6月2日	日	定例	7
6月15日	土	定例	8
6月16日	日	定例	3
6月23日	日	定例	7
7月7日	日	定例	2
7月14日	日	定例	10
7月15日	月	定例	6
7月21日	日	定例	6
7月28日	日	定例	11
7月28日	日	福岡県立柏陵高校	43
7月30日	火	多良木町育成会	41
7月30日	火	准園小学校	17
8月3日	土	定例	11
8月6日	火	NHK文化センター	17
8月10日	土	定例	4
8月10日	土	小倉高校	71
8月11日	日	定例	10
8月16日	金	定例	5
8月17日	土	定例	16
8月18日	日	定例	7
8月18日	日	福岡大学	26
8月23日	金	大分県工業振興課	37
8月24日	土	南山田小学校	37
9月1日	日	定例	6
9月8日	日	定例	20
9月10日	火	古賀東中学校	120
9月15日	日	定例	29
9月16日	月	定例	18
9月22日	日	定例	15
9月23日	月	定例	7
9月29日	日	福岡グリーンヘルパーの会	30
10月1日	火	大橋コミュニティセンター	17
10月6日	日	定例	20
10月12日	土	杵築生涯学習館八坂かっぱｸﾗﾌﾞ	38
10月13日	日	定例	4
10月14日	月	福岡高校	10
10月20日	日	定例	1
10月23日	水	ｽｸｰﾙｺﾝｻｰﾄ	4
10月27日	日	定例	7
10月30日	水	若葉まちづくり推進ｾﾝﾀｰ	48
11月4日	月	定例	15
11月10日	日	定例	2
11月14日	木	定例	19
11月24日	日	定例	3
12月23日	月	定例	2
1月26日	日	定例	2
3月2日	日	定例	2
3月16日	日	定例	5

②自然解説員（インタープリター）利用事業

・九重の自然を守る会と共催で行う「自然観察会」とは別に、ビジターセンター職員（自然解説員）が随時、阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域に関する自然解説事業(※)を行なっている。

・平成 25 年度の自然解説事業回数は 17 回（前年度比：1 回増）、利用者数は、延べ 388 人（前年度比：10%減）。

・今年度は、九重町内の小中学校の受け入れが新規で 3 件あった。今後も地域の人達を含め、多くの人達に自然に親しんでもらえるよう、事業を継続していくことが必要である。

(※)自然解説事業は、館内における国立公園についてのレクチャーと、野外レクチャーの組み合わせにより実施。

九重町教員初任者研修

東飯田公民館 放課後子供教室

飯田小学校　タデ原の水質調査プログラム（共催：北九州大学、九重ふるさと自然学校）

野上小学校　環境学習

千葉県議員　研修視察

表 5.　平成 25 年度自然解説員利用事業一覧

開催日		概要	参加者数
5月12日	日	ふるさと祭り 猟師岳自然観察会	15
5月31日	金	ウェルライフ 自然観察研修 受け入れ	6
7月13日	土	家田の自然を守る会 湿原維持管理研修 受け入れ	16
8月7日	水	九重町教員初任者研修 受け入れ	5
8月11日	日	九重緑陽中学校 久住山登山	20
8月21日	水	APU学生九重町モニターツアー タデ原視察案内（主催：九重町）	40
8月28日	水	東飯田公民館 放課後子供教室	15
9月6日	金	宇美東中学校 国立公園レクチャー	120
9月29日	日	飯田小学校 タデ原の水質調査プログラム （共催：北九州市立大学、九重ふるさと自然学校）	16
10月4日	金	佐賀市兵庫公民館消費者ｸﾞﾙｰﾌﾟ 視察受け入れ	22
10月21日	月	ｺﾞﾐｾﾞﾛおおいたﾘｰﾀﾞｰ養成講座	11
10月29日	火	野上小学校環境学習	16
10月30日	水	海の自然史研究所視察 受け入れ	1
11月5日	火	挟間未来館お天気教室 タデ原保全研修受け入れ	20
11月7日	木	千葉県議員視察研修 受け入れ	18
12月15日	日	大分県地方史研究会主催講演会 発表 「文化的景観～草原の暮らしと自然」	24
3月22日	土	九州大学国際交流推進室　タデ原視察案内	23

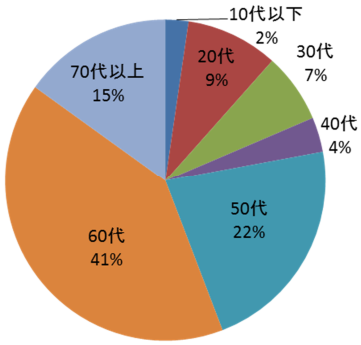
③各種イベント

a）サロン de くじゅう

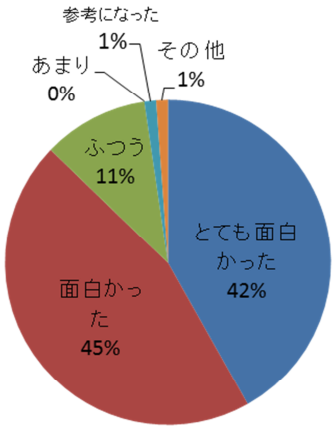
開催日時：毎月第 4 日曜日　13：30～15：30

場所：長者原ビジターセンター1 階オープンスペース

●アンケート集計結果



参加者の年齢層



参加者の感想

サロン de くじゅう の様子

表 6.　「サロン de くじゅう」開催内容 一覧

開催日	演目	講演者	参加者数
4月28日	レンジャーから見た「くじゅう」の魅力	環境省くじゅう自然保護官事務所ｱｸﾃｨﾌﾞﾚﾝｼﾞｬｰ 指原孝治	20
5月26日	タデ原の外来種とその対策方法について考える	九重ふるさと自然学校 代表 川野智美	20
6月23日	山の神と山伏さん	長者原ビジターセンター 種村英大	28
7月28日	長者原の冷たい冷泉	寒の地獄温泉 寒の地獄旅館 武石悠佳	18
9月22日	植物の生きる知恵・魅惑の花の性	長者原ビジターセンター 村松優子	28
10月27日	湯ったりのんびり筋湯温泉	筋湯温泉 ゆのもと荘 軸丸幸義・あずさ	28
11月24日	森のキノコと田舎暮らし	くじゅうネイチャーガイドクラブ 山本昌志	16
1月26日	山の神と山伏さん（ﾘﾋﾟｰﾄ回）	長者原ビジターセンター 種村英大	6
2月23日	植物の生きる知恵～魅惑の花の性（ﾘﾋﾟｰﾄ回）	長者原ビジターセンター 村松優子	3

b）入館者 80 万人突破記念セレモニー

開催日時：平成 25 年 7 月 26 日（金）

場所：長者原ビジターセンター2 階展望スペース

長者原ビジターセンターが平成 9 年にリニューアルオープンしてからの入館者が 80 万人を突破したことから、記念セレモニーを行った。当初、２階入口前の屋外スペースでのセレモニーを予定していたが、雨天のため館内で実施した。セレモニーでは、80 万人目の来館者となった小学生が、くじゅう地区管理運営協議会会長の坂本和昭九重町長と、くすだま開きを行い、セレモニー協賛団体等から記念品が贈られた。

セレモニーの様子

c）トイレ de 写真館コンテスト

募集期間：平成 25 年 7 月 20 日～平成 25 年 8 月 31 日

展示期間：平成 25 年 10 月 1 日～現在

昨年度からトイレ展示「トイレ de 写真館」を開始し、くじゅう連山の美しい風景等の写真を公衆トイレに展示することで、トイレ利用者の意識向上を図っている。今年度は展示写真の公募コンテストを行った。応募作品は 43 点あり、審査の結果 3 点の入選作品を選出、写真を大きく引き伸ばして展示した。また、他の優秀作品 6 点も加えて展示した。入選者には、ビジターセンターから記念品を贈呈した。

トイレ de 写真館 展示の様子

トイレ de 写真館 外観

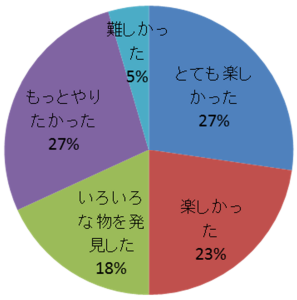
c）阿蘇くじゅう国立公園指定 80 周年プレイベント

平成 26 年 12 月に阿蘇くじゅう国立公園が 80 周年を迎えることから、そのプレイベントとして、アメリカ・イエローストーン国立公園において、野生生物についての教育プログラムを行う、スティーブ・ブラウン氏（イエローストーングレーシャーアドベンチャー株式会社代表取締役）を迎え、「フクロウからみえる森のいきもの」「国立公園の新しいカタチ 自然保護と地域経済とのかかわり～イエローストーン国立公園の事例から～」の２つのイベントを実施した。（共催：九州地方環境事務所、九重ふるさと自然学校）

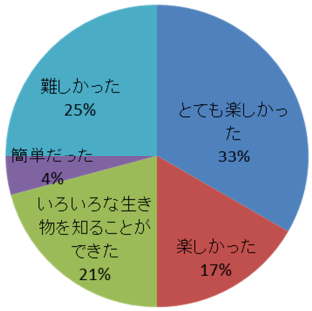
●「フクロウからみえる森のいきもの」

開催日時：平成 25 年 11 月 17 日（日）　9：00～12：00
場所：長者原ビジターセンターおよび長者原園地
講師：スティーブ・ブラウン氏
参加者：小学生～中学生　15 名　　参加費：800 円

最初に長者原園地で野生動物を探すフィールドワークを実施。その後、長者原ビジターセンター館内にて、フクロウのペレット解体を体験し、生き物の命のつながりについて学んだ。参加者アンケートでは、「森を歩くのが楽しかった」「ペレットの解体で色々なものを見つけることができて楽しかった」といった感想が得られた。



フィールドワークのアンケート結果



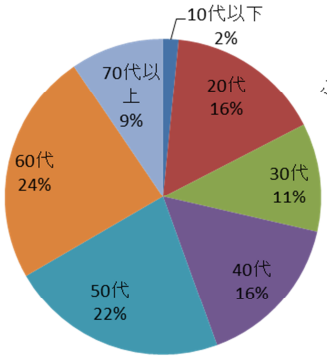
ペレット解体のアンケート結果

●「国立公園の新しいカタチ 自然保護と地域経済とのかかわり ～イエローストーン国立公園の事例から～」

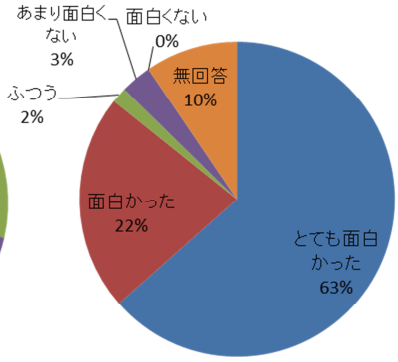
開催日時：平成 25 年 11 月 17 日（日）　14：00～16：00
場所：九重青少年の家
講演者：スティーブ・ブラウン氏
参加者：85 名　　参加費：無料

国立公園における自然保護と地域の経済活動の両立をテーマに、アメリカ・イエローストーン国立公園でかつての生態系を取り戻す活動を実践してきた事例を紹介。参加者アンケートでは、「とても面白かった」・「面白かった」が 86%となり、好評であった。

講演会の様子



参加者の年齢層



アンケート結果

3. 施設管理業務

(1) 清掃業務

①日常清掃

・ビジターセンター館内は、閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃を毎日実施。

・公衆トイレについては、職員による日常清掃をより強化して行うとともに、昨年に引き続きトイレ清掃ボランティア（基本的に金・土・日・月・祝日の週 4 回程度）を入れ、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。また、消臭剤を各便器に設置するなど、悪臭の改善に努めた。

（公衆トイレ清掃頻度：トイレ清掃ボランティア（朝）+職員による日常清掃＝1 日 3～6 回）

館内清掃の様子

公衆トイレ清掃の様子

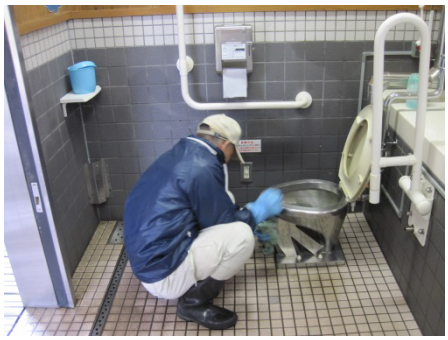
②特別清掃

・ビジターセンター館内、公衆トイレ共に、年１回、清掃業者による特別清掃を実施した。

ビジターセンター館内：カーペットクリーニング、ワックスがけ、窓清掃等

公衆トイレ：便器のやすりがけ、スケールの除去等

館内特別清掃の様子



公衆トイレ特別清掃の様子

(2) 園地管理業務

・長者原園地においては、ゴミ拾い等清掃の他、芝刈り・草刈り業務を実施。常に美しい芝生広場が保たれるよう、園地内芝生広場の維持管理を行った。

・駐車場の植木について、剪定を行った。また、公衆トイレ裏および駐車場看板周辺の繁茂した草木について、ゴミ放棄が懸念されていたため除伐を行った。

園地管理の様子

4. 自然環境保全活動・調査

(1) 自然環境保全活動

・飯田高原野焼き実行委員会、環境省くじゅう自然保護官事務所、九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会等に随時協力し、野焼き活動、外来種駆除活動、登山道保全整備活動等を行なった。

タデ原の外来種（オオハンゴンソウ）駆除活動

黒岩山登山道整備

表 7.　平成 25 年度自然環境保全活動一覧

実施日		概要
4月29日	月	タデ原周辺 外来種駆除活動（守る会主催）
6月1日	土	坊原登山道補修（守る会主催）
6月2日	日	平治岳 登山道整備（守る会主催）
6月21日	金	ｵｵﾊﾝｺﾞﾝｿｳの分布調査（守る会主催）
7月7日	日	ﾋｺﾞﾀｲ保護活動（ﾊﾟｰｸﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ主催）
8月8日	木	坊ガツル外来種駆除活動（九州電力主催）
8月10日	土	タデ原周辺 ｵｵﾊﾝｺﾞﾝｿｳ駆除作業
9月14日	土	坊ｶﾞﾂﾙ輪地切り（九州電力主催）
9月21日	土	坊ｶﾞﾂﾙ輪地焼き（九州電力主催）
10月25日	金	黒岩山登山道整備
11月6日	水	タデ原ﾉﾘｳﾂｷﾞ除伐作業（守る会主催）
11月22日	金	タデ原輪地切り・草寄せ
11月23日	土	タデ原輪地切り・草寄せ
11月24日	日	タデ原輪地切り・草寄せ
11月26日	火	タデ原輪地切り・草寄せ
11月28日	木	タデ原輪地切り・草寄せ
12月1日	日	平治岳 一人一石運動（守る会主催）
12月2日	月	タデ原草寄せ、VC前防火帯草切り
12月8日	日	ｵｵﾊﾝｺﾞﾝｿｳ駆除地のﾉﾘｳﾂｷﾞ除伐（守る会主催）
2月27日	木	ｵｵﾊﾝｺﾞﾝｿｳ駆除用ビニールシート撤去

(2) モニタリングサイト 1000 里地調査

・平成 25 年度より、環境省の「モニタリングサイト 1000 里地調査 植物相」にタデ原を登録した（調査主体：九重の自然を守る会）。平成 25 年度の調査実施回数は 8 回（4～11 月に毎月 1 回実施）、今後 5 年間継続して調査を行う。

・調査の事務局はビジターセンター職員が行い、調査の前後には毎回、職員によるレクチャーを行った。また、調査の様子を館内に展示することで、一般利用者にも活動内容を知ってもらうように努めた。

・タデ原調査地でのモニタリング種数は 206 種(※)であり、そのうち環境省レッドデータ掲載種は 11 種、大分県レッドデータ掲載種は 28 種であった。　(※)イネ科、カヤツリグサ科をのぞく種子植物種数

調査の様子

職員によるレクチャーの様子

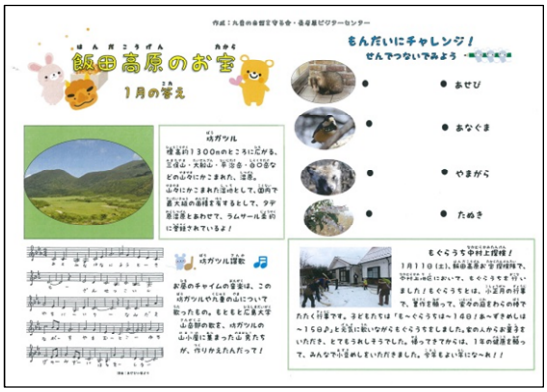
5. 環境教育活動

(1) 飯田高原お宝クイズ

・九重町立飯田小学校に、毎月 2 問程度、くじゅうの自然・歴史・文化に関するクイズを掲示。

・クイズとともに回答ボックスを設置し、児童が答えを書いて入れる仕組み。後日添削し、プレゼントのシールとともに返却。その際に全校にクイズの答えに関する配布物を配布している。平成 25 年度の実施回数は 9 回、参加者は延べ 257 人だった。

実施の様子



配布物の例

(2) 飯田小学校親子レク

・開催日：平成 25 年 10 月 30 日（水）

・参加者：飯田小学校 1 年生および保護者計 23 名

・タデ原の自然観察会を行った後、材料を長者原園地で集め、ススキのフクロウづくりを行った。

タデ原の自然観察会の様子

ススキのフクロウづくりの様子

(3) 飯田高原お宝探検隊との活動 （詳細は「平成 25 年度飯田高原お宝探検隊活動報告書」を参照）

飯田高原お宝探検隊の活動の様子

開催日		飯田高原お宝探検隊 内容
5月6日	月	一目山でディキャンプ
7月1日	月	里芋植え
7月6日	土	カシワモチ作り
7月25日	木	豊後渡川遊び
10月18日	金	お月見探検「あげたへさげたへ」
12月21日	土	しめ縄づくり
1月11日	土	もぐらうち（中村上地区）
3月9日	日	公民館祭り子供広場

6. 広報活動

(1) メディア関係

平成 25 年度出演回数：10 回

対応日	内容
5月27日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
7月22日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
8月23日	大分合同新聞取材インタビュー
9月23日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
10月16日	OBSﾗｼﾞｵ収録
11月10日	OBS大分放送「新九州遺産」 ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｻｲﾄ1000の様子取材
11月25日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
12月17日	西日本新聞取材インタビュー
2月5日	西日本新聞同行取材「暮雨の滝」
2月17日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演

(2) 長者原ビジターセンター　ブログ

平成 25 年度更新回数：24 回

更新日	内容
4月1日	タデ原の野焼きが行われました！
4月6日	新コーナー「森のかおり」を始めました！
4月26日	「サロン de くじゅう」開講します！
4月30日	「くじゅうの森をたんけん！ｸｲｽﾞｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰ」を始めました！
6月12日	梅雨時期の登山の注意！
6月20日	タデ原で「ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｻｲﾄ1000里地調査」を開始しました！
7月11日	生き物でにぎわう夏のタデ原
7月19日	「夏休み自由研究　タデ原ﾎﾟｹｯﾄ図鑑を作ろう！」開催のお知らせ
7月19日	「トイレde写真館コンテスト」開催のお知らせ
7月26日	祝！入館者80万人達成！！
8月14日	ヒゴタイが見ごろです♪
10月5日	「くじゅうから誕生！子ども樹木博士になろう！」開催のお知らせ
10月11日	イエローストーン国立公園がくじゅうにやってくる！！
10月14日	トイレde写真館結果発表～♪
11月1日	タデ原のススキでフクロウ作り！
11月9日	【再募集♪】フクロウから見える森のいきもの
11月18日	フクロウから見える森のいきもの
11月23日	講演会「自然保護と地域経済とのかかわり」～ｱﾒﾘｶ・ｲｴﾛｰｽﾄｰﾝ国立公園の事例から～ 報告
12月18日	本日、大雪！
12月28日	年末年始休館のお知らせ
1月30日	タデ原の移ろい'13-'14！
2月22日	今年は大雪！
3月1日	長者原ビジターセンター新規職員採用のお知らせ
3月25日	春のきざし♪

ブログ掲載の様子

(3) 長者原ビジターセンター　フェイスブック

平成 25 年度更新回数：103 回

・ページの購読者（「いいね！」の数）は 835 人（昨年度より 537 人増）。購読者数は、全国のビジターセンターのフェイスブックページの中でトップクラス。最新の自然情報をリアルタイムに提供するよう努めたことにより、購読者が大幅に増加した。

フェイスブック掲載の様子

(4)「長者原だより」の発行

長者原だよりは、くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年４回発行。センター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布。

長者原ビジターセンターからお届けする

長者原だより

TAKE FREE!

2013. 夏号

観察しよう！ 花と虫のつながり

夏から初秋、タデ原では一年で最も花が多くなる季節です。きれいな花に出会うと、散策も一層楽しくなりますね。大きい花がぱっと咲くキスゲやノハナショウブも、小さい花がたくさん集まったアザミやヒゴタイも、花を美しく咲かせる理由はもちろん、私たち人間の目を楽しませるため：ではなく、虫を呼ぶためです。虫は植物にとって、花粉を運んでくれる大切なパートナーです。長い進化の歴史の中で、植物は、花粉を運んでくれる虫たちを呼ぶために蜜を用意し、その場所がわかるように、きれいな花を咲かせるようになりました。今回はそんな、切っても切れない「植物」と「虫」のつながりに注目してみたいと思います。

晴れた日、きれいな花をじっと見ていると、意外と多くの虫に出会います。その中でも特に、ノアザミなどのアザミの仲間は、様々な種類の虫がひっきりなしにやってくるので、観察するには面白い花です。

ノアザミは、筒状の花（筒状花）がたくさん集まって一つの花（頭花）を構成しています。咲き始めの花は、先端を刺激すると、白い花粉がどんどん出てきます。花粉を出し尽くすと、雌しべが伸びてくる仕組みです。

この花でよく目にするのが、ヒョウ柄模様のヒョウモンチョウの仲間【写真①】。長いロで吸蜜にやってきたチョウに対し、ノアザミの筒状花は長さが15ミリと長いので、花の奥にある蜜を吸ううちに、体がつい雄しべに触れて、花粉を運ぶことになります。

ハナアブ【写真②】は、ハエと同じように花粉を舐めとったり、口を伸ばしてストローのように蜜を吸うこともできる器用な昆虫、飛行もうまく、ノアザミを始め、様々な形の花にやってきます。一方、ハナムグリ【写真③】のような甲虫は、体が重く、飛ぶことが下手なので、小さい花が集まってひとつのかたまりのようになった、着陸しやすい花を狙ってやってきます。そして、花の上を歩き回りながら、表面に出てきた花粉を短いロで食べます。ノアザミにとっても、彼らのように一か所に長くとどまり、花粉をたっぷりつけて、花から花へと移動する甲虫は、大切な花粉媒介者のひとつのようです。

また、ハサミムシのように何匹も同じ仲間が花の上で集まっていることもあります【写真④】。こんなとき、彼らにとってノアザミは、花粉や蜜を食べるだけのものではなく、オスとメスの出会いの場にもなっています。

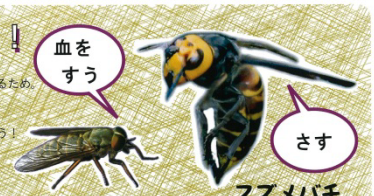
【写真⑤・⑥】のマルハナバチは、草原の植物にとって、とても大切な昆虫です。ハナバチの仲間は、優れた立体感覚と強い力を持って、筒型の花の中に潜り込んだり、閉じている花を押し開いたりすることができます。ノハナショウブ・サワギキョウ・コバギボウシ：多くの草原の植物が、このマルハナバチに花粉を運んでもらうため、特徴的な形をした花をつけています。タデ原の植物には、このマルハナバチがいなくなってしまったら、子孫を残せない植物がたくさん生育しています。

環境の中で自然を見つめると、季節や時間とともに移ろう様子であったり、他の生き物とのつながりであったり、様々な自然のつながりが見えてきます。つながりを見つけると、自然観察は一段と楽しくなります。夏は一年中で生き物が最も活発に活動する季節。この夏はぜひ、多様な生き物のつながりを楽しんでみてはいかがでしょうか。

①ウラギンヒョウモン：ストローで蜜を盗もうとしても花粉がついてしまう ②ハナアブ：吸蜜も飛行も巧みで寒さにも強い ③ハナムグリ：一度着陸するとしばらく滞在して花粉を食べる ④ハサミムシ：花粉も虫も食べる雑食性 ⑤トラマルハナバチ：むくむくの毛に花粉がたっぷりつく ⑥ノハナショウブにやってきたトラマルハナバチ：雌しべを押し上げて奥までもぐりこむとようやく蜜にたどりつく ⑦8月に咲くサワギキョウの花

危険な虫にご注意！！

野外には注意すべき危険な虫もたくさんいます。
虫が攻撃してくるのは、自分の身や子どもを守るため。
私たちはそんな虫に対する知識を持って、
危険を避けるように努めることが大切です。
準備を万全にして、フィールドに出かけましょう！



アブ・ブユ

特に、朝夕の時間帯に活発に活動する。できる限り肌の露出を減らすことで、予防する。薄手のぴったりした服も、上から刺されることがあるので注意！虫よけ薬を使用することも効果的。

スズメバチ

もし遭遇したら、通り過ぎるのを静かに待とう。万一、巣が近くに見えたら、その場からそっと離れること。巣の近くのハチは攻撃性が高く非常に危険。巣は木のうろや、土の中にあることもある。

草原でよく見かける。ススキやヨシの葉をちまきのように折りたたんで作られた巣。

カバキコマチグモ

日本では代表的な毒グモだが、クモの方から積極的に人をかむことはまずない。不用意に触ってかまれると、激痛を伴って赤く腫れる。巣を見つけても素手で触らないこと。

先人の知恵 教えてもらいました！

アブやブユに刺されたとき、すぐにつけると効く！

カキドオシの汁

カキドオシは、日本全国に自生するシソ科の多年草。
生えているカキドオシをそのまま潰して塗ってもOK。
常備するなら、カキドオシ(全草)を摘んで洗い、水分を取ってから、ホワイトリカー(焼酎)にひたひたに漬ける。
1年ほど置いて、ウイスキーの色くらいになったら完成！

春～夏のイベント報告 ＆ 周辺のできごと

【5月12日（日）坊ガツルの自然環境調査 報告会】

主催：NPO法人 おおいた生物多様性センター

2011～12年にかけて、おおいた生物多様性センターが坊ガツルで行った調査の報告会が、ビジターセンターにて開催されました。調査の結果浮かび上がってきた、湿地環境の変質、シカの増加に伴う植生の消失などの具体的な問題に対して、調査者や一般の聴講者、行政の担当者のあいだで、貴重な意見交換が行われました。

【6月2日（日）くじゅう山開き】

登山者の一年の無事を願うくじゅう山開きが、今年も行われました。あいにくの雨模様の中、久住山山頂での神事には数百人が参加。牧ノ戸峠からの登山道は、開花し始めたミヤマキリシマを楽しみながら山頂を目指す人で賑わいました。

～ サロン de くじゅう ～

【毎月第4日曜日 13:30～15:30】様々な分野のゲストを招きくじゅうの自然についてその魅力や課題を語ってもらう、ビジターセンター公開サロンを開催中！

第1回 レンジャーから見た「くじゅう」の魅力

4月27日 環境省アクティブ・レンジャー 指原 氏

日々くじゅうの山を駆け回る、環境省アクティブ・レンジャーが、独自の視点でくじゅうの見所を紹介。くじゅう初心者も、ベテランも、思わず「へえ～」と言ってしまう新名所をたくさん教えてもらいました！

第2回 タデ原の外来植物とその対策方法について考える

5月26日 九重ふるさと自然学校 川野 氏

実際に外来種対策に取り組んできた事例から語られた、これからのタデ原での外来種対策の必要性、対策方法の提案に、これから対策に参加しようという聴講者のみならず、通りすがりの来館者も思わず足を止めました。

第3回 山の神と山伏さん

6月23日 長者原ビジターセンター 種村

昔の人々は『山』とどのように付き合ってきたのか？今も残る修験の跡や、資源開発の跡をたどることで見えてきた、くじゅう連山と人の歴史を紹介。現代の登山ブームとは一味違う視点から見た、山の世界に引き込まれました。

夏休みは、くじゅうで楽しむ！

タデ原の自然観察会

（参加費無料／個人参加申込不要）

九重の自然を守る会が、ボランティアでガイドする、人気の行事。ただ歩くだけではわからない、花・昆虫・樹木・山・歴史など、くじゅうの魅力を一緒に探索しませんか？

日程
7月21日（日）、28日（日）
8月3日（土）、8月4日（日）
10日（土）、11日（日）
17日（土）、18日（日）
24日（土）、25日（日）

時間 10:00～12:00
コース：タデ原から続く自然研究路約2,5km

夏休み自由研究～タデ原ポケット図鑑を作ろう～

（参加費有料/申込必要）

ラムサール条約にも登録された、国際的に重要な湿地であるタデ原湿原で、環境省のレンジャーと一緒に、夏休みの自由研究として、ポケット図鑑を作ってみませんか？

日程
8月10日（土）10:00～12:00
（小雨決行）
対象：小学生及び同伴保護者
コース：タデ原木道約1km
参加費：100円
定員：20名

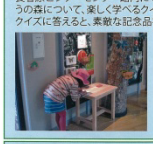
内容：タデ原湿原の木道約 1 kmのコースにて、環境省のレンジャーとタデ原に住む生きものを観察した後、長者原ビジターセンターで自分だけの手書きのオリジナルポケット図鑑を作成します。
持ち物：歩きやすい服装（長袖長ズボン）、運動靴、帽子、水筒、筆記用具、色鉛筆、雨合羽

参加希望者は、8月5日（月）までに、電話申込のこと。
申込先：0973－79－2154 長者原ビジターセンター

くじゅうの森を探検！クイズスタンプラリー

（参加費無料／申込不要）

長者原ビジターセンター館内にて、様々なクイズに答えて、くじゅうの森について、楽しく学べるクイズスタンプラリー。全部のクイズに答えると、素敵な記念品をプレゼント！



日程
開館時間中(9:00～17:00)
いつでも

所要時間：15分

サロンdeくじゅう（参加費無料/申込不要）

長者原ビジターセンター1階で、毎月第4日曜日（13:30～15:30）開催の、公開学習講座。夏休み期間中は、くじゅうの温泉大特集！くじゅうを代表する、2大温泉の宿の方々に、その魅力をたっぷり語っていただきます！

7月28日（日）「長者原の冷たい冷泉の不思議」

講師：寒の地獄旅館 武石 悠佳

九重町出身。観光の専門学校で勉強の後、実家である寒の地獄旅館で、日々お客様をもてなしている。地域の若者コミュニティtanar（タナー）の活動の中心人物。

8月25日（日）「湯ったりのんびり筋湯温泉」

講師：ゆのもと荘 軸丸 幸義

九重町出身。筋湯温泉で旅館ゆのもと荘を運営する傍ら、九重町商工会青年部部長として、日々九重町の観光振興のために奔走中。

【トイレde写真館コンテストのお知らせ】

長者原公衆トイレでは、トイレde写真館と題して、国立公園くじゅうの、美しい風景を展示しております。夏休み期間中は、特別企画として、「トイレde写真館コンテスト」を実施します。入賞作品は、トイレde写真館に展示させていただく他、入賞者には2000円相当の長者原オリジナルグッズをプレゼント（郵送）いたします！
応募期間：平成25年7月20日～8月31日 応募規定①阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域で撮影したもの、またはそれに準ずるもの。②画像サイズは、2MB以上のこと。③カラーであること。④写真内の人物が特定できる場合は、肖像権の了承を得ていること。
応募方法：電子メールにてchojabaruvisitor@yahoo.co.jpまで送付。(持込は受け付けません。1人3点まで)
メールには、住所・氏名・電話番号・e-mailアドレス・公表名・写真のタイトルを必ず記載して下さい。

長者原だより 2013 夏号

発行元：くじゅう地区管理運営協議会
企画・編集：長者原ビジターセンター
大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
TEL＆ FAX: 0973-79-2154
長者原ビジターセンターホームページ http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/
ブログ http://chojabaru.exblog.jp/
フェイスブックで最新の自然情報を配信しています！
facebook
◀長者原ビジターセンターfacebook QRコード

リレーエッセイ スタッフからの一言

長者原国地の芝刈りは、今が繁忙期。雨が降るたびに草はグングン伸びます。広い国地なので、やっと全部刈り終わったと思っても、最初に刈った場所はすでに30cmくらに成長しているべ、、、でも、きれいに刈った芝生の上で遊んでいる子どもたちや、くつろいでいる方を見ればうれしく、「よかった！」と思います。緑の濃い季節、芝生の上で夏の思い出を作ってみてはいかがでしょうか。 (時松)

環境省 アクティブ・レンジャー・指原の 国立公園プチコラム

近年、くじゅうや由布・鶴見地域でシカの数が増えており、葉や樹木の皮を食べる「食害」が目立っています。写真は、6月に食害調査で訪れた別府市の鶴見岳の状況です。何か違和感を感じませんか？それは、「①森の地面に草がほとんどない②同じ高さで樹木の葉がなく、先まで見通せる」ことです。シカが増えすぎると、植物を一気に食べ尽くすため表土が露出します。雨で表土が流され、土石流の発生を誘引し、その結果山が壊れていきます。また、シカの嫌いな植物だけが残ってしまい、生きものの多様性が失われます。シカが増えた理由は、ハンターの減少など諸説あります。くじゅうでは現在、食害は鶴見岳ほどひどくないですが、鶴見岳ではわずか数年で森の環境が変貌しました。シカ対策については、今年度から関係機関と連携して進めていく予定です。

長者原ビジターセンターからお届けする

長者原だより

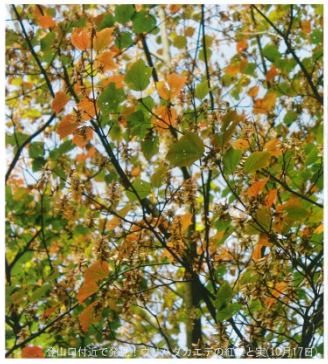
TAKE FREE!

2013.秋号

秋色の山道へ

10月中旬の紅葉シーズン、くじゅうは一年で、二を争うほどの数多くの登山者でにぎわいます。くじゅうの紅葉の中でも人気が高いのが大船山（標高1785m）山頂付近の紅葉。大船山へは、どのように登りますか？長者原から坊ガツル経由で登る方法、久住高原側の岳麓寺から登る方法など、いくつかのアプローチがありますが、いずれにしても、登山口から山頂まで、片道3時間以上かかる長丁場です。大変だなあ…と思うかもしれません。しかし、この道中には、森の中を歩いていくことで発見できる、秋の山道の楽しさがたくさん詰まっています。

森の中で見つかる『どんぐり』は、子どもから大人まで、うれしい発見のひとつ。今年の秋は、風が吹けば頭にパラパラと落ちてくるほど、随分たくさんのどんぐりが落ちていました。『どんぐり』とは、一般的に、ブナ科の果実全体を指して使われる言葉です。登山口付近に多いのは、クヌギのどんぐりや、クリ。長者原付近の標高1000m程の場所では、人為的な影響が大きく、シイタケのほだ木になるクヌギなど、人が利用するために植えられた樹木が多く見られます。山道をもっと進んでいくと、多く見つかるのはミズナラのどんぐり。ブナ科コナラ属の落葉高木であるミズナラは、九州では標高約1000mの山腹を覆う代表的な植生である。ミズナラ林をつくり出しています。ミズナラ林は、ブナ林へ移行する途中の植生ですが、火山活動による土壌の影響で、あざやかさは例年に比べて少しかし、樹種の豊富な山道で目にする、様々な実りや、緑一色だった森が多彩に色付く秋の山道は、がたくさんの種類の植物でつくられていることが感じられる、驚きと感動の宝庫です。あの木の紅葉、あの木の実、それぞれの木の個性を楽しみながら、山道を歩くのも楽しいものです。


涂山口付近で発見！ヤマタカエデの紅葉と実（10月17日）

色あざやかな大船山山頂の火口湖、御池の紅葉（10月17日）

ミズナラのどんぐり（10月14日）

山頂帯は、昼と夜の気温差が大きく、紫外線が強い分、紅葉の色付きは非常にあざやかです。大船山や三俣山山頂帯の岩場や火口壁では、土壌がうすく、風の強い乾燥環境に耐え得る植物が厳選されており、鮮烈に紅葉するコミネカエデやナナカマド、ベニドウダンといった樹木の他に、ツクシシャクナゲやササ類などの緑色が混じったパッチワークのような美しい紅葉の風景を楽しむことができます。

今年のくじゅうは、9月～10月上旬、美しい紅葉の条件のひとつである急激な冷え込みが長く続かなかったため、例年に比べて少し物足りないかもしれません。しかし、火山活動による土壌の影響で、あざやかさは例年に比べて少しかし、樹種の豊富な山道で目にする、様々な実りや、緑一色だった森が多彩に色付く秋の山道は、がたくさんの種類の植物でつくられていることが感じられる、驚きと感動の宝庫です。あの木の紅葉、あの木の実、それぞれの木の個性を楽しみながら、山道を歩くのも楽しいものです。

特定外来生物 オオハンゴンソウの駆除活動

九重の自然を守る会では、特定外来生物であるオオハンゴンソウの駆除活動に6年前から取り組んでいます。しかし、オオハンゴンソウは繁殖力が非常に強く、2gの取り残しからも再生するほど。長者原周辺でも繁茂が懸念されています。今年度は、生育状況や分布状況のモニタリングの実施、駆除方法の効果を学術的な見地から検証するなど、より効果的で持続可能な駆除方法の確立を目指した駆除活動が行われています。

10月13日には農業環境技術研究所研究員の大澤剛士氏を講師に招き、オオハンゴンソウの生態について学ぶ研修会を開催しました（主催/九重の自然を守る会）。このように専門家からの意見を取り入れ、ボランティア・行政など地域を挙げた多くの協力を得ることで、長者原周辺のオオハンゴンソウ撲滅に向けた活動が続けられています。

▲調査区を設定する

▲異夏の刈取り作業

▲研修会の様子

特定外来生物
オオハンゴンソウって？

キク科の多年草。7～10月に黄色の花を咲かせる。日本の生態系に重大な影響を及ぼすおそれがあるとして、外来生物法による「特定外来生物」に指定され、栽培、運搬、販売、野外に放つことなどが禁止されている。

●ビジターセンター周辺のできごと 夏～秋●

祝 入館者80万人達成！！ 7月26日

7月、長者原ビジターセンターが平成9年にリニューアルオープンしてから入館者が80万人を突破し、記念セレモニーが行われました。80万人目となったのは久留米市の小学生、村上麗樹君。久住山登山が雨で中止となったため、ビジターセンターに遊びにきたところでした。セレモニーでは、坂本和昭九重町長と、くすだま開きが行われ、九重町、竹田市、九重・飯田高原観光協会、九重町観光協会、久住高原観光協会、環境省、八鹿酒造、九重夢大吊橋、法華院温泉山荘などから、素敵なくじゅうグッズや食事券・宿泊券などがプレゼントされました。

「タデ原の水環境を学ぶ」 9月29日

北九州市立大学原口研究室の主催のもと、飯田小6年生がタデ原の水質調査を行いました。これは、水と生きものの関係を知ることを目的に行ったった行事で、pH（酸性・中性・アルカリ性）や電気伝導度（金属物質がどのくらい含まれているか）を、専用の機械で計測し、タデ原の水質と生きものマップを作成しました。子ども達は、初めての水質調査に興味津々でした。できたマップは、現在ビジターセンター1階に展示中です！

トイレde写真館コンテスト

今夏開催したトイレde写真館コンテスト（募集期間7/20～8/31）には、43点の美しい写真の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品3点（金賞・銀賞・銅賞）を決定し、10月からトイレde写真館（タデ原公衆トイレ・泉水山公衆トイレ）にて、展示しています。また、応募作品の中からビジターセンタースタッフが独自に他6点を選ばせて頂き、合わせて展示しています。皆様のお隣で、トイレde写真館がとても美しく賑わいました。ご応募ありがとうございました！次回のコンテストは来年春ごろ開催予定です。

サロンdeくじゅう 毎月第4日曜13：30～

第4回　長者原の冷たい冷泉の魅力
7/28　寒の地獄旅館　武石 悠佳 氏

長者原にある冷泉（寒の地獄）は、なんと14℃！そんな冷泉の歴史や効能、そこにしか湧き出ない不思議など、魅力をたっぷりお話しいただきました。冷泉の試飲には、立ち寄った皆さんも興味津々。

第6回　植物の生きる知恵・魅惑の花の性
9/22　長者原ビジターセンター　村松 優子

テンナンショウ属植物は、自分の遺伝子をより効率的に残すために性転換をする…！植物が持つ、面白い繁殖生態をタデ原の花々を中心に紹介。植物に関心の深い来館者にも楽しんでいただけました。

※第5回「湯ったりのんびり筋湯温泉／ゆのもと荘 軸丸氏」は悪天候のため、10/27に延期になりました。

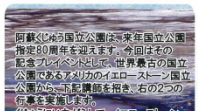
11/17(日)

阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念プレイベント

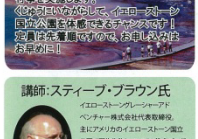
イエローストーン国立公園が『くじゅう』にやってくる!!

これからの国立公園の新しいカタチ

阿蘇くじゅう国立公園は、来年国立公園指定80周年を迎えます。今回はその記念プレイベントとして、世界最古の国立公園であるアメリカのイエローストーン国立公園から、下記講師を招き、右の2つの行事を実施します。くじゅうをいいながらして、イエローストーン国立公園を体感できるチャンスです！定員は先着順ですので、お申し込みはお早めに！



講師：スティーブ・ブラウン氏



イエローストーンクレーンショーアドベンチャー株式会社代表取締役
また、アメリカのイエローストーン国立公園で野生生物についての教育プログラムを行っている。専門をクマの生態、日本の自然に詳しく、講演やワークショップ等を通じ、1年の半分近くは日本で活動している。

フクロウから見える森のいきもの

対象：小学校4年生～中学生

長者原付近の森を探検して、いきものが残したフィールドサインを探した後で、フクロウが消化しきれずにこ、はきだしたもの（ペレット）を解体し、森のいとなみを学ぶ、体験プログラム。スティーブさんと一緒に、森について学んでみませんか？

時間：9:00～12:00
集合：長者原ビジターセンター（8:30受付開始）
定員：先着30名（要申込）
参加費：800円（保険料・資料代として）
持ち物：歩きやすい服装（長袖長ズボン）、防寒着、帽子、水筒、筆記用具、カッパ

『自然保護と地域経済とのかかわり』

～アメリカ・イエローストーン国立公園の事例から～

対象：どなたでも

国立公園の自然保護と地域の経済活動は両立するのか？イエローストーン国立公園において、絶滅した狼を再導入し、かつての生態系を取り戻す活動を実践してきたスティーブ氏が、そのテーマにせまる。未来の阿蘇くじゅう国立公園のカタチについて考える講演会。

時間：14:00～16:00
集合：社会教育総合センター九重青少年の家（TEL.0973－79－3114）（13:30受付開始）
定員：先着180名（要申込）＊空きがあれば、当日参加可
参加費：無料
持ち物：筆記用具・メモ用紙

＊17:30から長者原にてスティーブさんとの交流会を企画しております。（立食形式・会費制）参加希望者は別途、長者原ビジターセンターへお問い合わせ下さい。

●申込・お問い合わせ先：長者原ビジターセンター
TEL＆FAX:0973－79－2154
●申込期限：11／9（金）

くじゅうから誕生！ 子ども樹木博士になろう！

（参加費有料／要申込み）

長者原の森の中で、樹木とふれあいながら、樹木の特徴や名前を覚えましょう。覚えたあとは、「子ども樹木博士」の認定テストにチャレンジ！みんなで挑戦してみましょう！

▲子ども樹木博士認定証

日程／11/2（土）10:00～12:00（少雨決行）
対象／小学生および同伴保護者
定員／20名
参加費／100円（保険料）
持ち物／歩きやすい服装、防寒着、筆記用具
申込先／長者原ビジターセンター
TEL：0973-79-2154
申込期限／10/30（水）

サロンdeくじゅう

（参加費無料／個人参加申込不要）

長者原ビジターセンター1階で、毎月第4日曜日（13:30～）開催の、公開学習講座です。10-11月は、温泉にキノコと、秋も深まる季節にぴったりの内容となっています！

10月27日（日）「湯ったりのんびり筋湯温泉」

講師：筋湯温泉 ゆのもと荘　軸丸　幸義
九重町出身。筋湯温泉で旅館ゆのもと荘を運営する傍ら、九重町商工会青年部長として、日々九重町の観光振興のために奔走中。

11月24日（日）「森のキノコと田舎暮らし」

講師：くじゅうネイチャーガイドクラブ 山本 昌志
大分きのこ会会員。動植物、キノコ、昆虫などの命のつながりに興味を持つ。飯田高原で自給自足のための自然農を実践中。

タデ原の自然観察会

（参加費無料／個人参加申込不要）

九重の自然を守る会が、ボランティアでガイドする、人気の行事。ただ歩くだけではわからない、植物、山、歴史など、くじゅうの魅力を一緒に探索しませんか？

日程／10/27（日）、11/3（日）、11/4（祝）、11/10（日）、11/17（日）、11/23（祝）、11/24（日）、12/1（日）、12/15（日）、12/23（祝）
時間／10:00～12:00
コース／タデ原の木道から続く自然研究路約2.5km

長者原だより 2013 秋号

発行元：くじゅう地区管理運営協議会
企画・編集：長者原ビジターセンター
大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
TEL＆FAX:0973-79-2154

長者原ビジターセンター
ホームページ　http://kyushu.env.go.jp/nature/hyojyaharu/
ブログ　http://choujabaru.exblog.jp/

フェイスブックで最新の自然情報を配信しています！

facebook

◀長者原ビジターセンター facebook QRコード

リレーボード スタッフからの一言

今年の秋、ビジターセンターには様々な種類の木の実が集まりました。その多くは、地元のボランティアさんが持ってきてくれた食べられる実。ヤマボウシにアケビ、トチノキ、クリ…どれも、皆が「こんなにおいしそうな実は見たことがない！」とロをそろえて言うほど、ツヤツヤしたた立派なものばかり。こんな実を自分でゲットできるようになったら、山を熟知したと言えるようになるのかなぁ…（村松）

環境省レンジャー 新田の 国立公園プチコラム

長者原に赴任して半年たちました。仕事にも慣れてきたので、今回は保護官事務所について少しご紹介します。「くじゅう自然保護官事務所」は大分県内の国立公園を担当しています。【阿蘇くじゅう国立公園】の大分県側（くじゅう地域）は、くじゅう連山に加え、やまなみハイウェイ沿線と由布岳・鶴見岳を含む裾長い区域です。さらに【瀬戸内海国立公園】として、北から姫島、国東半島、おさるの高崎山、高島が点々と指定されています。これら合計21,243haが私たちの持ち場です。この中にある歩道や園地などの利用施設を、自治体や民間事業者の方々と協力して管理したり、開発によって自然景観が損なわれないよう行為者と協議し、時に禁止したりするのがレンジャーの仕事です。広大なエリアをたった二人で見ているので日々ドタバタですが、人と自然の調和を作り上げていく、とてもやりがいのある仕事です。

姫島の地蔵 ▶

長者原ビジターセンターからお届けする

長者原だより

TAKE FREE!

冬のくじゅう登山 はじめの一歩！

2014.冬号

一緒に、冬山を歩こう

冬のくじゅう連山は、雪と霧氷の世界。標高1700m級の山々が連なるこの地域は、厳しい寒さが特別な世界をつくり出します。それゆえに、「くじゅう連山は四季を通して素晴らしい景色が見られますよ！」と冬の登山もおすすめしていますが、はじめて冬の山に行く人にとっては、少し身構えてしまうかもしれません。山頂帯の樹木が生えない場所では、ときに白い山肌を烈風が吹き上げることもあり、こんなときの雪山では、登山の装備はまったく違うものになってしまいます。一方で、雪の山を手軽に楽しめるコースがあるのも、くじゅうならではです。今回はそんな、美しい冬の景色を手軽に楽しめる、「暮雨の滝」への登山コースを紹介します。

1月半ば、「ミヤマキリシマと、紅葉の季節は何回も登ったことがあるけど、冬の山は初めて」という地元の同世代の女性を誘って、雪の残る吉部登山道へ。ゴールの暮雨の滝までは、ずっと森の中の登山道を進んでいくので、数センチ程の積雪はあるものの、強風にさらされる心配はありません。今回、荷物は少々大きめ。オールシーズンの登山必需品に加えて、防寒着と軽アイゼン、さらに、滝を見ながら温かい飲み物を飲むためのバーナーや、保温ポット、長者原の登山口で購入した手づくりケーキ、冬芽を楽しむル

①最初の登り。ここを登れば平坦な道が続く。②「暮雨の滝」標識はここだけ。見過ごさないように注意！③ところどころ凍結しているので、軽アイゼンがあると安心。④滝で出会ったのは3人だけ。冬はすれ違う登山者も少ない。

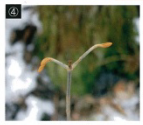
吉部登山口⇔暮雨の滝

10：00	長者原ビジターセンター集合、打ち合わせ
10：45	吉部登山口到着
11：00	登山開始 自然を満喫しながらゆっくり歩く
12：00	暮雨の滝到着 お昼ごはん&おやつ
13：00	暮雨の滝出発 のんびり下山
14：00	吉部登山口到着
14：30	長者原ビジターセンター到着

長者原ビジターセンターから吉部登山口まで車で約15分

冬山の登山を楽しむ

①冬はやっぱり、あたたかい飲み物を飲みたい。バーナーとカップを用意していけばそんな願いもかなう♪お菓子もあれば、なおGOOD！
②滝壺近くの氷。自然が作り出す形は不思議でとても美しい。
③クロモジの樹皮を少しだけ爪でけずり、匂いをかいでみる。「いやしの香り～」
④オオカメノキの冬芽。寒さに耐えてギュッと固まっている姿が、とてもいとおしい。
⑤ウバユリの果実。中のタネはすでに旅立ったあと。残った果実はまるでドライフラワーのように見える。



ーベなど、楽しみの広がる道具も入れて、40リットルのザックが一杯になる程度に詰めました。これらのお楽しみグッズは、普段ひとりで歩く時や、シーズン中の人が多いときには省略してしまうことが多いものですが、だれかと冬の雪山を楽しむときは、大活躍です。

雪の山は、新鮮です。ザクザクと雪を踏みしめる足音や、野鳥のさえずりが自然と耳に入ってくるのは、空気の澄んだ冬の山だからこそ気づく心地よさです。

登山口から20分ほど登れば、あとは平らな道が続きます。クロモジの樹皮の匂いをかいで、「アロマみたいな、いやしの香り！」と感動しながら、のんびり進みます。ビロード状のかわいい冬芽は、オオカメノキの芽。他にも、ドライフラワーとなったウバユリの果実など、立ち止まることの多い道のりですが、ゆっくり歩いても、1時間ほどで滝に到着します。

暮雨の滝は、吉部登山口から坊ガツルに抜ける登山道の途中にあります。落差約7m、幅約15mのこの滝は、気温が低い日が続くと凍結し、まれに完全凍結することも。今回は完全凍結、とはなりませんでしたが、雪と氷の間を勢いよく流れる滝は、圧巻！近づけば、モコモコとした巻き貝のような氷の塊や、1m以上ある巨大なつららを見ることができます。滝の流れは、坊ガツルを水源とし、鳴子川となって九重"夢"大吊橋の下を通り、九酔渓、玖珠川、筑後川と流れ、有明海に注いでいます。そんな水のゆくえに思いをはせるのも、また楽しいものです。

今回の登山では、ところどころ軽アイゼンを装着。積雪の少ないコースですが、登山道が踏み固められて凍っているため、歩くのに踏躇する場面がいくつかあります。今回一緒に歩いた人は、アイゼン初体験。最初は「アイゼン要るかなぁ？」と半信半疑でしたが、6本爪の軽アイゼンをつけて歩き始めると、「思ったより歩きやすいし、すべる不安が減って、楽に歩ける」とのこと。

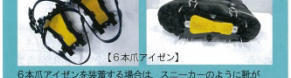
「次はアイゼンをつけて、中岳の御池に行こう」と、冬山の幅が広がりました。

冬の山に登るとき、登山届の提出はもちろん、雪が積もっていることで登山道がわかりにくくなるので、地図とコンパスは必ず持って行き、分岐点の道標や踏みあとを見失わないように、いつもより意識して歩くことが大切です。また、日が暮れるのも早いので、時間には余裕を持ち、天候が悪い場合は、無理せず早めに引き返すことも必要です。

くじゅうの山は、春・夏・秋、そして冬も、四季を通して楽しむことができるのが魅力のひとつです。この冬、くじゅうの冬山登山を始めてみてはいかがですか？

＼軽アイゼンを使おう！／

アイゼンとは、登山靴の裏につける、滑り止めの爪のこと。軽アイゼンはその中で、爪が4本・6本のものを指します。雪山でも、斜面がゆるやかで、ピッケルなどを使わずに歩けるような場面では、軽アイゼンが有効です。



【6本爪アイゼン】

6本爪アイゼンを装着する場合は、スニーカーのように靴がやわらかいと、しっかり固定できません。トレッキングシューズ以上を用意し、装着できるか確認してから使用することが大切です。

◀急斜面で雪のかたい高山では、前に爪のある10本・12本アイゼンが必要になる。

歩くときは、靴裏全体を同時に斜面に着地するように歩くこと。6本の爪全部が雪面に食い込むように意識して歩きます。注意点は、アイゼンの爪で、もう一方の足をひっかけないように、足と足の間隔を広くとること。また、しっかりと足を上げること。つまずいて転倒しないように、慣れるまで注意が必要です。

阿蘇くじゅう国立公園は、平成26年12月4日に、指定80周年を迎えます。

平成25年11月17日（日）、「阿蘇くじゅう国立公園指定80周年プレイベント」を開催しました。
（主催：くじゅう地区管理運営協議会　共催：九州地方環境事務所・九重ふるさと自然学校）
今回は、世界最古の国立公園である、アメリカ・イエローストーン国立公園において、野生生物についての教育プログラムを行っているスティーブ・ブラウン氏を講師に迎え、2つのイベントを開催。その様子をお知らせいたします！

フクロウからみえる森のいきもの

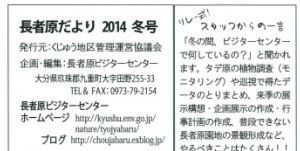
9：00～12：00　場所：長者原ビジターセンター
参加者：小学生～中学生　15名

まずは、スティーブさんと一緒にくじゅうの森を探検！野生動物がいるかもしれないから、足音をしのばせて、そ～っと、そ～っと歩こう！

あ！タヌキ発見！イノシシ発見！これは刺製。でも、くじゅうの森にはいろんな生きものがいるんだね。

今度は、森に生きるフクロウのお話。フクロウは、森でネズミなどをつかまえて食べるんだよ！羽音が全然しないから、動物たちはフクロウが近づいてきたこと、気づかないんだね。

では、フクロウがどんな動物を食べているか、確かめてみよう！フクロウが、動物を食べた後に、骨や羽を消化しきれず吐き出した「ペレット」の解体に挑戦するよ。



わぁ、小さな骨がたくさん出てきた！これを、骨格標本図の上にのせていくと…

ネズミの骨格標本ができたよ！このフクロウはネズミを食べていたんだ。森は、生きものたちの生命のつながりで成りたっていることがわかったよ。色んな生きものがいる、くじゅうの森はますますすきだなぁ！

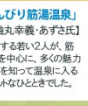
国立公園の新しいカタチ 自然保護と地域経済のかかわり

～イエローストーン国立公園の事例から～

14：00～16：00　場所：九重青少年の家　参加者：85名

アメリカ・イエローストーン国立公園において、かつての生態系を取り戻す活動が、どの程度地域の経済に影響を及ぼしたのか…。イエローストーン国立公園では、1900年代前半に、野生動物を大量に殺害する悲しい歴史がありました。野生のバイソン、オオカミ、クマは絶滅や絶滅寸前まで追い詰められました。その後、アメリカ国内において、野生動物保護の機運が高まり、過去70年間の過ちを反省し、元の生態系を回復させる事業が始動。これらの取り組みの結果、国立公園へ訪れる人が増加し、地域経済が活性化したということでした。

スクールの大きい、アメリカの国立公園の話でしたが、これからの阿蘇くじゅう国立公園において、私たちにできることは何かを考える上で、大きなヒントがあったように思います。自然保護と地域経済は相反するものではなく、両立できるというスティーブさんの話に、多くの参加者から、大変おもしろい講演だったとの声をいただきました。



スティーブ・ブラウン氏
イエローストーングレーシャーアドベンチャー株式会社代表取締役。主にアメリカのイエローストーン国立公園で野生動物についての教育プログラムを行っている、専門はクマの生態。日本の自然にも詳しい。

サロンdeくじゅう

10/27「湯ったりのんびり筋湯温泉」
【筋湯温泉 ゆのもと荘　軸丸幸義・あずさ氏】
筋湯温泉の旅館を運営する若い2人が、筋湯温泉の伝統的な歴史を中心に、多くの魅力を語ってくれました。これを知って温泉に入るのでは大違い？！のホッかなひとときでした。

11/24「森のキノコと田舎暮らし」
【くじゅうネイチャーガイドクラブ 山本 昌志 氏】
次から次に出てくる、たくさんのキノコの写真にびっくり！見たことがあるようなキノコでも、ちょっとした違いや、猛毒のキノコもある～。知られざるキノコワールドに引き込まれました。

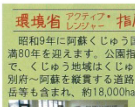
長者原だより 2014 冬号
発行元：くじゅう地区管理運営協議会
企画・編集：長者原ビジターセンター
大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
TEL& FAX:0973-79-2154
長者原ビジターセンターホームページ　http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/
ブログ　http://choujabaru.exblog.jp/
フェイスブックで最新の自然情報を配信しています！
facebook
◀長者原ビジターセンターfacebookQRコード

ワレ～ガ スタッフからの一言

「冬の間、ビジターセンターで何しているの？」と聞かれます。夕方原の植物調査（モニタリング）や巡視で得たデータのとりまとめ、来季の展示構想・企画展示の作成・行事計画の作成　普段できない長者原園地の景観形成など、やるべきことはたくさん！！「のんびり一息」、といきたいところですが、新年度も「おもしろい、変わったね！」と言われるようなセンターを目指し、冬の間も職員一同、がんばっています！（種村）

環境省 アクティブ・レンジャー 指原の 国立公園プチコラム

昭和9年に阿蘇くじゅう国立公園が誕生して、今年の12月4日で満80年を迎えます。公園指定当時は、まだ「阿蘇国立公園」の名で、くじゅう地域はくじゅう連山のみが国立公園でした。現在は、別府～阿蘇を縦貫する道路「やまなみハイウェイ」や由布岳、鶴見岳等も含まれ、約18,000haの広大な公園面積を誇っています。



80周年を迎えるに当たり、環境省では国立公園に関係する大分県や熊本県、各市町村、そして民間団体と、「阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念事業実行委員会」を昨年12月24日に設立しました。実行委員会では、記念式典やシンポジウムの開催、記念誌の制作、80年を振り返る記念写真展等の事業を計画しています。また、環境省でも、山に親しむ自然ふれあいイベント、ミヤマキリシマの保護活動等々、阿蘇・くじゅう周地域で様々な主催行事を企画中です！　今年は6月25日に、やまなみハイウェイも開通50周年を迎えます。メモリアルイヤーの阿蘇くじゅう国立公園に、2014年はチューモクですよ！

7. 職員研修実績

(1) 技能研修

・4 月 17 日　普通救命講習（種村・時松・村松）

(2) 視察研修

・4 月 7 日　久住高原における「モニタリングサイト 1000」調査視察（種村・村松）

・3 月 7 日～8 日　兵庫県立人と自然の博物館・有馬富士公園　施設および運営手法の視察（村松）

可動式展示および市民参加型展示の視察
（人と自然の博物館）

自由参加のオープンセミナー等を行う施設
空間の視察（人と自然の博物館）

スタッフによる自由参加プログラムの視察
（人と自然の博物館）

有馬富士公園における市民参加型の公園運営の視察
（有馬富士公園において自主活動を行う市民による
成果発表・交流会の視察）

可動式スペースにおける企画展示の視察
（有馬富士公園・三田市立自然学習センター）

多様な施設利用の視察
（有馬富士公園・三田市立自然学習センター）

8. 新聞掲載記事

自然や歴史、山岳信仰

とっておきのくじゅう紹介

くじゅうの魅力や課題を幅広い人たちに知ってもらいたい―。九重町田野の長者原ビジターセンターは、くじゅうの自然などについて知識を深める講演会「サロンｄｅくじゅう」を開いている。テーマは温泉、ウオーキング、山岳信仰やくじゅうの歴史などさまざま。「自然散策や登山の後などに気軽に立ち寄って」と呼び掛けている。

（上）講演する環境省くじゅう自然保護官事務所の指原孝治アクティブレンジャー（下）クイズスタンプラリーを楽しむ子どもたち＝九重町田野

長者原ビジターセンター

知識深める講演会

町内外の人たちにくじゅうを深く知る機会を提供し、より楽しんでもらおうと本年度からスタート。講師は旅館の関係者や自然解説員、山岳ガイドなどで、とっておきのスポットや楽しみ方を紹介する。来年3月までの毎月第4日曜日に開く予定。

初回の講演会があり、環境省くじゅう自然保護官事務所アクティブレンジャーの指原孝治（30）さんが話した。

「季節や天候によってコロコロと表情を変えるくじゅうは何度見ても飽きることはない」と指原さん。くじゅう連山を代表する景観のほか、ネコやサルに似た岩などあまり知られていないスポットについて説明した。

次回は5月26日、タデ原湿原の外来種について、九重ふるさと自然学校の川野智美代表が講演する。参加無料。

同センターは、子ども向けにクイズスタンプラリーも始めた。双眼鏡をのぞいて見える鳥の名前を答えたり、木の名前を当てる。受付で答え合わせをすれば、タデ原で見られるホオアカのシールをもらえる。来年3月まで。（伊藤友仁）

「表情コロコロ、見飽きない」

大分合同新聞（朝刊）

平成 25 年 5 月 5 日（日）

長者原ビジターセンター

サロンｄｅくじゅう 魅力発信

ゲスト招き 毎月１回開催

九重

九重町田野の長者原ビジターセンター（種村英大センター長）で、さまざまな分野のゲストを招き、くじゅうの魅力などについて語ってもらう「サロンｄｅくじゅう」が毎月1回、開かれている。参加無料、申し込みも不要で自由に参加できる公開サロン。「小さな試みですが息長く続けて、くじゅうの魅力を発信したい」と種村センター長は話している。

サロンは、同センター初の試みで4月にスタート。毎月第4日曜に同センター1階で開催。自然保護や地域づくりの活動家、温泉旅館経営者、山岳ガイドなどをゲストに招き、くじゅうの魅力や現在抱える課題などについて話を聴く。

2回目の26日には九重ふるさと自然学校の川野智美代表が「タデ原湿原の外来植物とその対策」と題して講演。近年、同湿原周辺で繁殖する外来植物オオハンゴンソウについて、海外の対策例を紹介しながら話し、約20人が参加した。

豊後高田市から訪れた竹中則夫さん（66）は「いろんな角度からくじゅうにアプローチできて面白い。子どもたちも引きつける工夫をすると、もっとよくなるのでは」と話し、今後も参加するという。

環境省くじゅう自然保護官事務所の新田一仁自然保護官は「オムニバス形式で地元の人が生きた話をするのは、他の国立公園地域でもあまりない先進的な試み。環境や観光など問題意識を地元が共有するいい機会になる」と今後の展開に期待している。

次回のサロンは6月23日午後1時半、種村センター長が「山の神と山伏さん」をテーマに語る。同センター＝0973（79）2154。

26日に開かれた「サロンｄｅくじゅう」でタデ原湿原の外来植物について話す九重ふるさと自然学校代表の川野智美さん（右）

西日本新聞

平成 25 年 5 月 30 日（木）

タデ原湿原で長期植物調査

「九重の自然を守る会」が開始

生態系や環境把握

毎月1回5年間継続 リストを作製

タデ原湿原の植物を調べる九重の自然を守る会のメンバー

九重の自然を守る会（嶋田裕雄会長）は、九重町・飯田高原にあるタデ原湿原の植物を月1回、5年間にわたって調べる「モニタリングサイト1000里地調査」に乗り出した。環境省が取り組む全国調査の一環で長期間、植物の生育状況を調べて、生態系の特徴や環境の変化などを把握しようという試み。同会の渡辺格雄理事長は「長期間、継続して調べることで変化が分かる。実際に会員の目で見て確認することが重要だと思う」と話している。

調査は、環境省が2003年に着手し、森林、里地、沿岸域など全国千カ所程度で継続的に生物調査をする計画。タデ原湿原では過去に本格的な植物調査が行われていないため、同会が調査実施団体に応募した。

同湿原を草原、湿地、森林、森林の周縁部の4地域に分け、各地域で生育する植物リストを作製。各植物が「つぼみ」「花」「実」の、どの段階にあるかを記録する。毎月第3日曜に約2・5キロある湿原の木道を会員が歩いて調べる。すでに4月から調査を開始しており、各回50種類前後の植物を確認している。

調査の事務局を務める長者原ビジターセンターの自然解説員村松優子さんは「希少植物の現状や外来植物の侵入状況など、これまで少なかった具体的データが得られると思う。息長く取り組んでいきたい」と話している。

西日本新聞

平成25年6月19日（水）

くじゅうの自然など知識を深める講演会

くじゅうの自然などについて知識を深める講演会「サロンdeくじゅう」が、九重町田野の長者原ビジターセンターであった。

ビジターセンター近くにある「寒の地獄旅館」の4代目、武石悠佳さん(29)が講演した。「毎分2千リットルを超える冷泉が噴き出しているのは九州ではここだけ」と説明。冷たくなった体を暖炉で温める独特の入浴方法を紹介した。

講演する武石悠佳さん

講演会はくじゅうの魅力や課題を幅広い人たちに知ってもらいたいーと今年4月から、毎月第4日曜日に開催。次回は25日、筋湯温泉について「ゆのもと荘」の軸丸幸義さんが講演する。参加無料。

大分合同新聞（朝刊）

平成25年8月9日（金）

長者原ビジターセンター

来場80万人を突破

改築16年 自然志向で人気増

くじゅう連山の玄関口として定着している九重町田野の「環境省長者原ビジターセンター」の来場者数が26日、80万人に到達した。センターが1997年7月に改築してから16年での達成。登山、観光客が情報を集めるだけでなく、くじゅうの自然環境を守る人たちの活動拠点としても機能しており、週末は多くの人でにぎわっている。

坂本和昭町長（右）とくす玉を割った80万人目の村川麗樹君＝九重町田野

80万人目は福岡県久留米市の村川麗樹君(7)。母の麗香さん(34)や友人らと登山を計画していたが、雨のためセンターを訪れた。記念セレモニーで坂本和昭町長、環境省くじゅう自然保護官事務所の新田一仁自然保護官が「ラムサール条約に登録されているタデ原湿原に隣接する素晴らしい環境にある。くじゅうを満喫してほしい」と歓迎し、くす玉を割って祝った。

村川君は「登山ができなくて残念だったけど、80万人目になれてうれしい。ここから見える景色は緑がたくさんできれい」と喜んでいた。

同センターは1966年、国内で4番目のビジターセンターとして開所した。97年、タデ原湿原に隣接する形で施設の建て替えを実施。湿原周辺の自然環境を保存し、展示するエコミュージアム（生活・環境博物館）として再オープンした。現在は地元のくじゅう地区管理運営協議会（会長・坂本九重町長）が指定管理を受け、運営している。

自然を知ってもらうイベントの開催や自然志向の高まりなどにより、年々来場者が増加。2009年の7万4千人から、昨年は11万4千人まで伸びている。

種村英大ビジターセンター長は「自然保護活動に共感してくれるくじゅうのファンを増やすため、引き続き魅力ある施設づくりを進めていきたい」と話した。（伊藤友仁）

大分合同新聞（朝刊）
平成25年7月28日（日）

心と体を癒やす避暑地

飯田高原は豊かな自然が作り出す、避暑に最適のポイントが各地に点在している。心地よい涼しさで心と体をリフレッシュできる場所を紹介する。

くじゅう連山への玄関口となる環境省長者原ビジターセンター。センターに隣接するタデ原湿原を抜け、九州自然歩道を500㍍ほど歩くと、小川のせせらぎが聞こえてくる。

ミズナラなどの木々に囲まれた森林の中でブクブクと水が湧き、小川を作り出している。湧水に近づくと、ヒンヤリとした冷気が体を通り抜ける。

ビジターセンターの種村英大センター長(31)は「小川は筑後川の源流。夏にはとても気持ち良いところだが、湧水に降りる坂道は滑りやすいので注意して」と話している。

九州自然歩道沿いの湧水を紹介する環境省長者原ビジターセンターの種村英大センター長＝九重町田野

大分合同新聞（朝刊）
平成25年8月28日（水）

くじゅうの自然 知識を深めて

長者原で講演会

くじゅうの自然について知識を深める講演会「サロンdeくじゅう」が22日、九重町田野の環境省長者原ビジターセンターであった。

センターの自然解説員、村松優子さん(28)が講演した。栄養状態によって性転換し、子孫を残しやすくしているテンナンショウ属の植物について説明。「植物は動けないがゆえに多様な形態に進化した。一つ一つに魅力があり、絶滅させてはならない」と自然環境を守る大切さを訴えた。

講演する村松優子自然解説員

講演会はくじゅうの魅力や課題を幅広い人たちに知ってもらいたいーとことし4月から、毎月第4日曜日に開催している。次回は10月27日午後1時半から、筋湯温泉について「ゆのもと荘」の軸丸幸義さんが講演する。参加無料。

大分合同新聞（朝刊）
平成25年8月27日（金）

九重には まだまだ可能性

米国立公園のブラウンさん 自然保護で講演

世界初の国立公園イエローストン（米国）で野生動物や温泉などに関する教育用プログラムを開発しているスティーブ・ブラウンさん(53)の講演会が17日、九重町田野の県社会教育総合センター九重青少年の家であった。

講演するブラウンさん

来年12月に阿蘇くじゅう国立公園の指定80年を控え、くじゅう地区管理運営協議会などがプレイベントとして開いた。くじゅうで自然保護活動に携わる人など約100人が参加した。

協議会長の坂本和昭町長が「くじゅうの草原美を守るために、自然保護について学ぼう」とあいさつ。ブラウンさんが「自然保護と地域経済との関わり」と題して講演した。

生態系を元に戻すため、イエローストンで絶滅したオオカミをカナダから再導入した活動を紹介。「生態系への好影響だけでなく、オオカミを観察する観光客が増え、地域経済も潤った」と指摘した。

約100人が参加

九重町についても触れ、「九重〝夢〟大吊橋は人と自然が結び付いて経済効果を生む素晴らしい施設。この町にはまだまだ可能性がある」と述べた。

大分合同新聞（朝刊）
平成25年11月19日（火）

やまなみの明日へ

ハイウェイ開通50年

▶▶1

人と自然をつないで

長者原ビジターセンター自然解説員

村松　優子さん(28)

九重町田野

2年前の春、飯田高原(九重町)に来るまでは首都東京の丸の内で働く会社員だった。

高知県の大学、大学院で林業や森林の生態系を学び、製紙会社に就職。紙の原材料となるユーカリを育てる海外の植林地管理業務を担当したとはいえ、森の中を走り回った学生時代と違い、デスクワークが続いた。満員電車に揺られて通勤し、ビルの中で過ごす日々が気付くと丸2年になっていた。

「自然に触れあっている実感がまったくなくなった。人と自然をつなぐ仕事をしたかった」。インターネットで同高原の長者原ビジターセンターが自然解説員を募集しているのを見つけ、「これだ」。くじゅう連山は就職前に一度、歩いただけだったが、迷いなく飛び込んだ。

◇　◇

ラムサール条約登録のタデ原湿原やくじゅう登山口がある長者原には、やまなみハイウェイを利用して多くの人が集まる。ビジターセンターの入館者は昨年、80万人を超えた。

「大自然の中に簡単に来られる。こんないい場所はない。ただ、たくさんの人に来てもらえる、というだけではいけない」と真剣に考える。タデ原湿原の生態系や環境の変化を把握しようと、「九重の自然を守る会」が行う植物調査に事務局として携わる。

昨年から5年間の長期調査。希少種も見つけたが、オオハンゴンソウなど植物の侵入も進んでいる。50年前に開通した道は、人とともに「外来生物」もこの地に運んできた。

「何もしないで自然は守れない。外来種の問題も放置していたら解決しない。自然を守ってきた先輩の活動を引き継がなければ」

◇　◇

登山客らへの山や湿原の情報提供、センター内の展示やネットでの情報発信、自然保護活動のコーディネート、駐車場の公衆トイレ清掃…。ビジターセンターの業務は幅広く多忙だが、充実している。人情もある。

「地元の人は、縁もゆかりもない私を温かく迎えてくれた」

一日の仕事を終え、タデ原湿原の木道を歩くのが楽しみだ。夕日に照らされた湿原の中に野草が花をつけ、小さな虫や野鳥が息づいている。この素晴らしさを高原を訪れる多くの人に伝えたい。そして「自然を守る仲間を増やしたい」。

もうすぐ、ここでの生活も丸2年になる。

◆　◆

やまなみハイウェイが半世紀前に開通したことで、豊かな自然はさまざまな「資源」となり、多くの人をはぐくみ、呼び寄せた。やまなみに引かれ、やまなみとともに生きる人たちの営みを紹介する。

「くじゅうの自然の素晴らしさをたくさんの人に伝えたい」と話す長者原ビジターセンターの村松優子さん

西日本新聞

平成26年1月4日（土）

9. その他

職員紹介

種村英大（たねむらえいだい）　業務責任者　センター長
村松優子（むらまつゆうこ）　自然解説員　展示・ふれあい担当
時松薫路（ときまつくんじ）　自然解説員　園地・施設担当

地域の概要

長者原ビジターセンターは、阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域に存在し、1700 m 級の山々が連なり「九州の屋根」と呼ばれる、くじゅう連山北西部に位置する。通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿い、大分県九重町長者原地区にセンターがあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの裏側には、ラムサール条約登録湿地のタデ原湿原が広がり、設置された木道からは、四季折々の自然を肌で感じながら、山野草を楽しむことができる。

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、九重の自然を守る会、大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、筌ノ口温泉観光協会、久住高原観光協会、おおいた観光サービス、学校法人福岡大学、長者原ヘルスセンター、オーベルジュ・コスモス、レストハウスやまなみ、九重西鉄ホテル花山酔、みやま商店、寒の地獄旅館、九重星生ホテル、ホテルやまなみ荘、九重観光ホテル、九重ヒュッテ、エルランチョグランデ、牧ノ戸売店、飯田高原ドライブイン（飯田農協）、法華院温泉山荘、くじゅう倶楽部、九重森林公園、橋本建設、ア・マ・ファソン、界　ASO、飯田高原デザイン会議、九重ふるさと自然学校、久住高原みちくさ案内人倶楽部（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

朝日台レストハウス、九州電力八丁原発電所、九州林産林業部、福岡県中学校体育連盟、福岡県高等学校体育連盟（敬称略・順不同）

阿蘇くじゅう国立公園　長者原ビジターセンター

【住　　所】〒879-4911
大分県玖珠郡九重町大字田野 255－33
【電　　話】0973－79－2154
【ホームページ】http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/
【入 館 料】無料
【開館時間】9:00～16:00（平成 25 年 5～10 月は 9:00～17:00）
【発　　行】平成 26 年 3 月 31 日

運営管理業務者：くじゅう地区管理運営協議会